SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

平成7年度冬季巡検記：神奈川県立生命の星・地球博物館見学

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-06-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 浜田, 俊 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00025217

平成7年度冬季巡検記
～神奈川県立生命の星・地球博物館見学～

浜　田　　俊*

全国には数多くの博物館があり、独自の特徴と機能を備えて地域社会に貢献している。12月24日、県地学会冬季巡検が、平成7年3月20日、小田原市郊外に開館した県立生命の星・地球博物館で行われた（図1）。場所は小田原市入生田、国道1号線入生田交差点陸橋に大きく館名が表示してある、そこを右折するとモダンな建物が見えてくる、これが目的の博物館である。

参加者はほぼ定刻に集合したが、数は少ない、これも暮れのせいかもしれない。学芸部長の松島義章博士の説明を聞きながら案内をしてもらう。地上4階、地下1階、地下は駐車場であり、災害時には地域住民の避難場所にあてられるという。入館者は開館以来約39万人に達している。多くは東京方面からの見学者で、これは箱根に近いから行楽のついでに寄ってみようということらしい。また高校生以下は無料なので、小学生の遠足など学習の場としての利用も多いようである。

スタッフは東大名誉教授濱田隆士館長はじめ、21名の方々が「地球の生たち」、「生物の進化」、「神奈川県の自然」「自然との共生」というテーマにそって活躍されている。

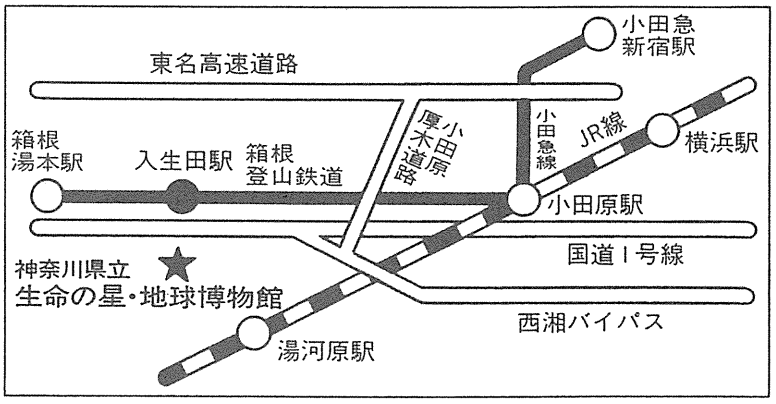

図1．神奈川県立生命の星・地球博物館案内図
小田原市入生田499　TEL.0465-21-1515

館内に入り目に入るのは正面エントランスホール、天井には爬虫類の骨格標本（レプリカ）が泳いでいる。他には巨大な魚類、爬虫類の骨格標本が迎えてくれる。1階の「地球」コーナーでは、地球誕生と初期の様子、地球の仕組みなどが、2.5tもある巨大隕石（写真1）や、空気中の湿気を吸うと溶けてしまうということで樹脂に封じ込まれためずらしい隕石、火星から飛んで来たと思われる隕石などが展示してある。世界各地より集められた岩石標本、その中でも最古の岩石（39億年）、最古の生命化石（35億年）標本からは地球草期を知ることができよう。リップルマーク・ドロマイトやストロマトライトなどの岩石の壁は重量感がある（写真2）。

奥には「生物の進化」数m にも及ぶ魚類標本から、爬虫類・鳥類・哺乳類へと、生物の多様性を紹介している。この中で獣形類（哺乳類型爬虫類）の化石（写真3）を見ることができる。哺乳類の剝製には、コアラ、カンガルーなどが子供達の人気になっている。

昆虫の展示では、従来の標本箱にたくさん昆虫を入れて展示するという方法から、「ほう」とか「お

＊沼津学園高等学校

もしろい」といった声が聞かれるような展示である（写真4・5）。またこのゾーンの一角には化石ラボという部屋があり、化石をクリーニングしているところを見学することもできる。

2階には地元神奈川県の生い立ちを紹介している。地元の身近な生物や、ゾウの化石などまた、プレートテクニクスの考え方を取り入れて、丹沢と伊豆半島とのかかわりなどもわかりやすく解説してある。植物もレプリカであるが色彩なども精巧に作られている。

3階ジャンボブックには、学芸員の方々の日頃の研究成果や、個人コレクション（サメの歯・貝標本）などが展示してある。

収蔵庫には、化石、岩石、動物植物標本などの未整理のものなど約40万点が図書館の書庫棚のようなシステムで保管されている。床面積を有効にするために、2階部分は駐車場に見られるような網目状の床になっていて、柱もあまり使われていなかった。長期研修者のために宿泊可能な研修室も整備されている。

この館の特徴としては、「見る」主体から「触れる」ことができるという点ではなかろうか。また小中学生や保護者、一般を対象とした屋外実習などの研修会を常時実施していることなどである。

新しい博物館の見学は実り多いものであった。静岡県にも1日も早く自然史博物館の建設が望まれる。

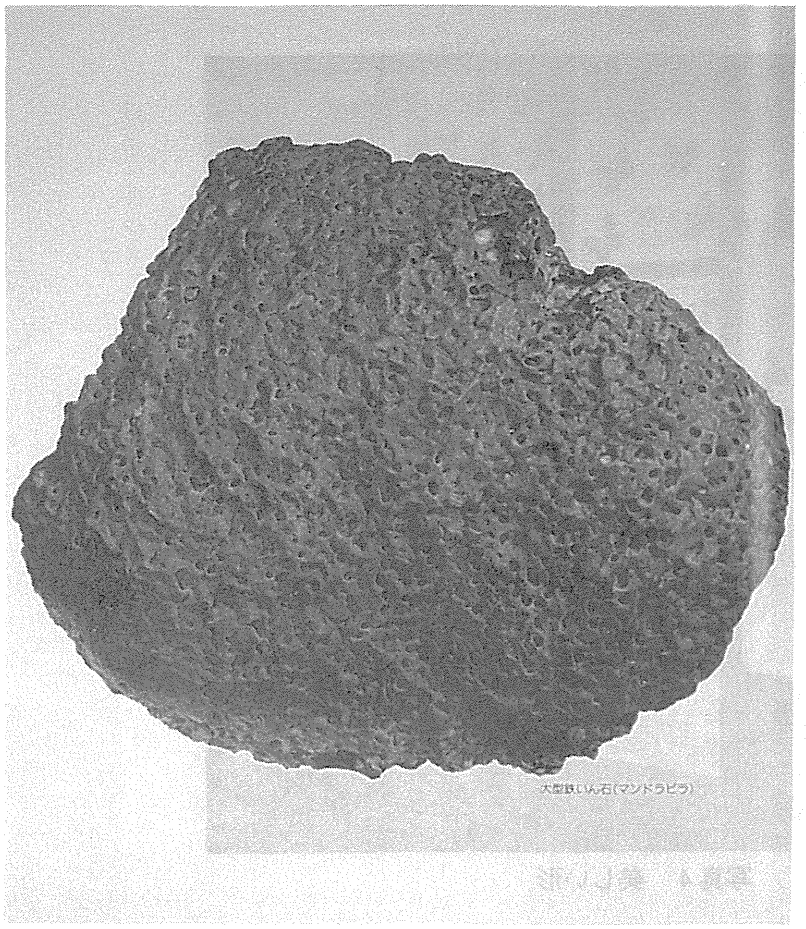

写真1　巨大隕石

写真2　ストロマトライトの壁

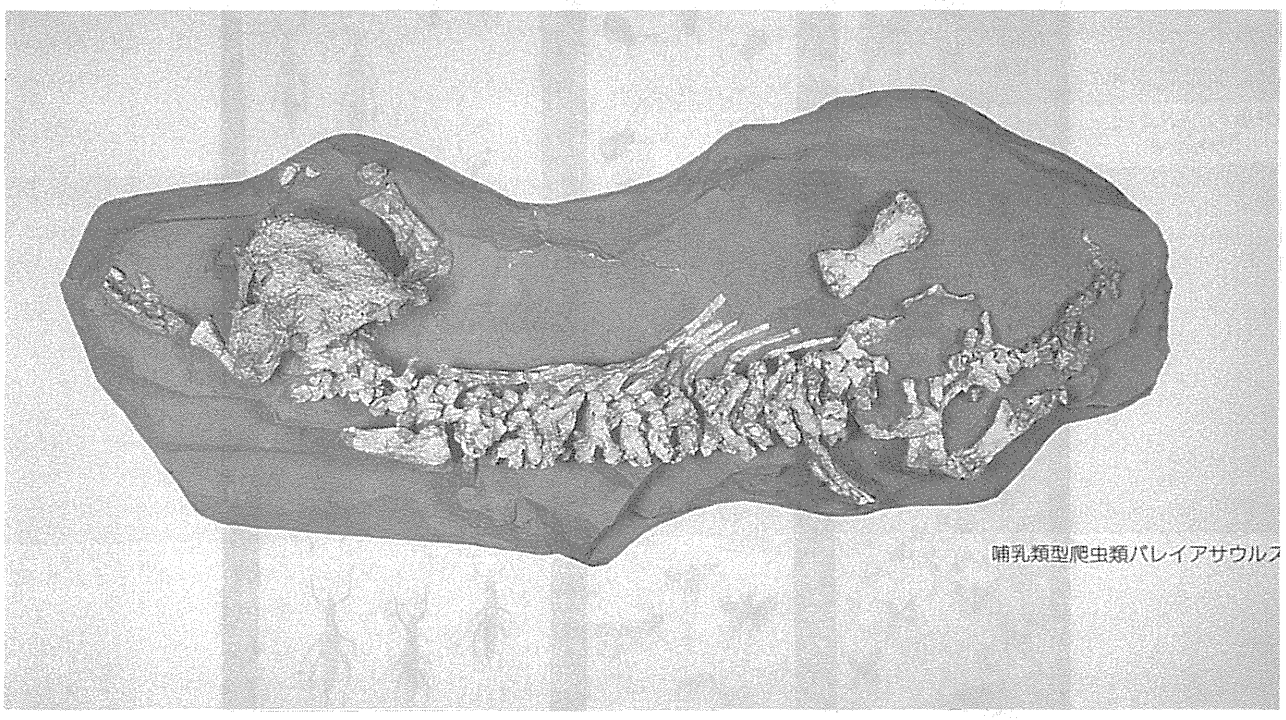

写真3　哺乳類型爬虫類（パレイアサウルス）の化石

写真1．2．3は展示解説書より

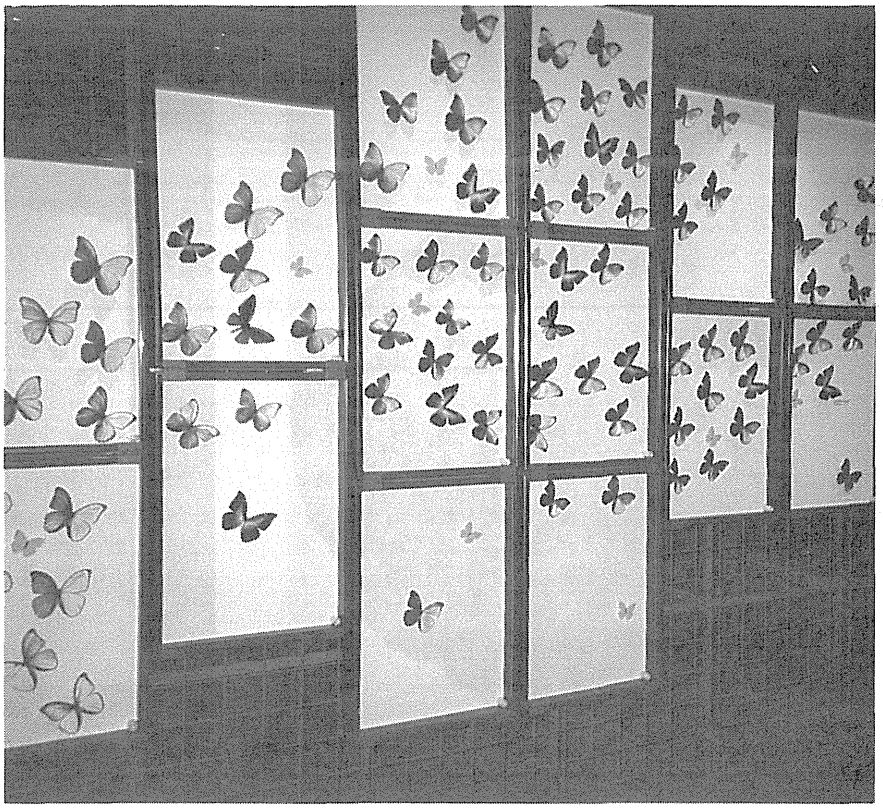

写真４　美しい形

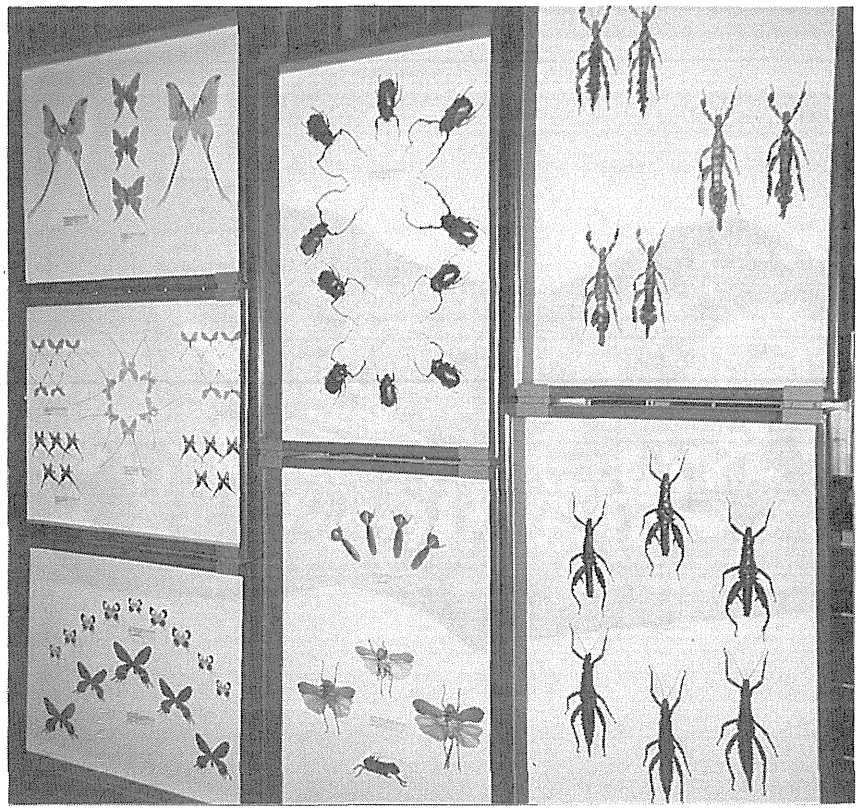

写真５　奇妙な世界